

## ◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：認定 NPO 法人 水のフォーラム

20A-15

代表者：代表 藤原悌子

URL : [http:// w-forum. jp](http://w-forum.jp)

---

### 1. 活動が必要とされた状況

埼玉県の水は農業用水系も絡んで非常に複雑です。今後、自然災害激化が想定されていますが、県民が県土を流れる水についてよく理解できない理由はそこにあると考えます。

そこで、県土の7割に関わる荒川を軸に、諸河川とその流域の歴史・文化を紹介していますが、シリーズ「荒川を下りながら」の第4弾は、その荒川とは水系も流域も異なる武蔵野台地北半を占める埼玉県の河川を一つにまとめて紹介し、県民の河川理解に役立てたいと考えました。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

＜実施時期＞ 平成 29 年度前半～資料収集。 後半に原稿作成等まとめ。

＜参加人数＞ 筆者、校正人員として数名。

＜活動内容＞ 特集記事：

荒川とは一線を画す武蔵野台地北半の河川、新河岸川とその支流を紹介。  
実践活動報告：

①17年目になる里地里山保全の活動地・見沼の縄文文化の紹介と、それを引き継ぐ当活動の作法を「見沼田圃再々考」として紹介。

②5年目になる「上下流交流会」、今年度はハッ場ダムと奥利根のダム群訪問。その報告を通じて埼玉県がハッ場ダムを必要とする理由を解説。



『水のFORUM』Vol. 17より

### 3. 活動の成果

活動に不可欠な理念や思想のインキュベータ的役割を担う機関誌『水の FORUM』は、国会図書館や都中央図書館(旧日比谷図書館)にコーナーが設けられ、各号収蔵されています。NPOの発行物でこのような扱いは珍しいそうです。

当機関誌を継続発行することで、それら図書館等で読まれて問い合わせもありますし、既刊誌があることで、会員の若返りが進んでいます。

また、農業用水と河川をつなぐ必要性が言われながらもなかなか実現しませんが、水のフォーラムの提案で双方が語り合う場が動き出し、一歩ずつ制度改革の歩み寄りが見られます。

### 4. 今後に残された課題

残る18～20号、そして合冊本まで後4年、何とか目的を達成したいと考えています。